

静岡大学教育学部附属浜松小学校

取組Ⅰ「自律と協同の資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント」

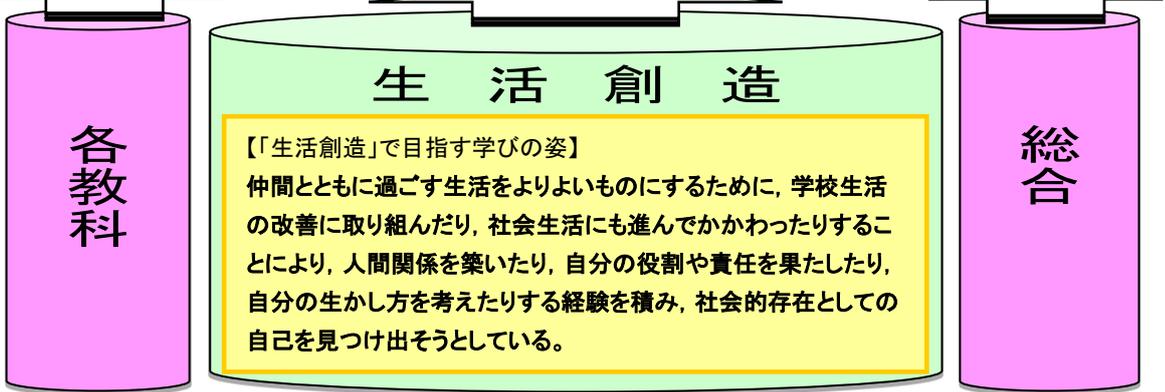
カリキュラム・マネジメント＝ 学校がこれまでに培ってきたものを大切に生かしながら、子どもに育みたいものについて「資質・能力」面から捉え直し、より効果的な学びを探っていこうとする営み

本校では「自律と協同の資質・能力」を育みたい資質・能力の中心に据え、カリキュラム・マネジメントを行う。

第94回研究で取り組んだ「各教科」「総合」領域に加え、「生活創造」領域でも、目指す学びの姿や、学びの手立てを明らかにし、「自律と協同の資質・能力を發揮して学ぶ姿」を目指す。

自律と協同の資質・能力を發揮して学ぶ姿

- ・自ら課題をもち、思考、表現する。
- ・仲間とかかわり合い、多様な見方・考え方から新たな知識や価値に気づき、自分自身や仲間の課題解決に向け、個人や集団の学びを深める。
- ・学びを振り返り、新たな課題を見つける。



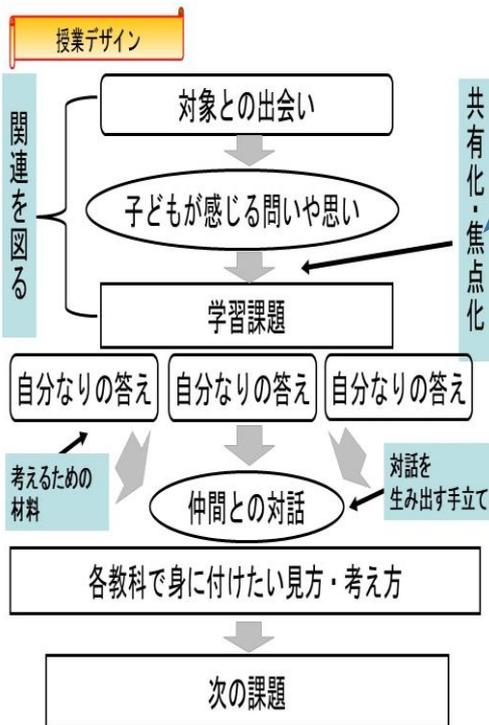
【「生活創造」で目指す学びの姿】

仲間とともに過ごす生活をよりよいものにするために、学校生活の改善に取り組んだり、社会生活にも進んでかかわったりすることにより、人間関係を築いたり、自分の役割や責任を果たしたり、自分の生かし方を考えたりする経験を積み、社会的存在としての自己を見つけ出そうとしている。

【生活創造の学びの手立て】

- ① 学校生活をよりよいものにするために、子どもが活動に向けて自分なりの思いや願いをもつ場面を設定する。
- ② 活動目標を、教師と子どもが共有し、活動へ向けての具体的な課題を把握させる。
- ③ 活動目標を踏まえて、子どもに活動内容や活動の見通しをもたせたり、計画を考えさせたりする。
- ④ 子どもが課題解決に至る過程を重視する。試行錯誤の中で活動を追究させ、やり遂げさせる。
- ⑤ 一つの事象について様々な考えがあることを体感させる。意見を比較したり、協力したりする体験を通して、仲間と活動することのよさを感じさせる。
- ⑥ 活動の省察する場面を設定する。その振り返りを生かして、次の活動に向けて具体的な課題を把握させたり、必要なアドバイスを行ったりする。

取組Ⅱ「自律と協同の資質・能力を育む学習課題のあり方と授業デザイン」



子どもが自律と協同の資質・能力を發揮しながら、各教科の本質に触れる学びを行うためには、学びの出発点となる学習課題が重要。

子どもが感じる問いや思いを生かした学習課題の設定も大切だが、教師が投げ掛ける場合もある。授業をデザインする際に、教師が各教科の本質に触れる学びにつながる問いや子どもにもたせたい思いは何かを教師が見出しおき、課題を共有化・焦点化していくことが大切。

【本質に触れる学びにつながる問いや思いを見出す視点】

- ① 各教科特有の「見方・考え方」を働かせることにより、解決できること
- ② 単元を越えて繰り返し現れるような問いであること
- ③ 単純な1つの答えがなく、多様な考え方や表現方法が出されること
- ④ 様々な知識や技能が統合されて、各教科で身に付けたい見方・考え方へとつながること

【授業デザインで大切となる視点】

- ① 働き掛ける対象から学習課題を共有化したり焦点化したりすること
- ② 学習課題を追究するために必要なことは何か考えること
- ③ 子どもの学びの文脈を「本物の実践」に近づけること
- ④ 対話を促す支援を考えること
- ⑤ 学びの振り返りの仕方を工夫すること

連絡先： 静岡県浜松市中区布橋三丁目2-1
TEL (053) 455-1441 FAX (053) 457-3583 担当：大村